

# 研究の概要

20 21 年 8 月 28 日

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名：	精液持参の割合が増えたコロナ禍における保温容器の効果
代表研究者 (所属・氏名)：	医局 中岡義晴
研究の目的：	新型コロナウイルス感染症の影響により院内への患者来院数を制限するため、精液持参の割合は増加している。精液持参の場合は外部環境の影響、とくに外部温度によって運動性に影響する可能性が高い。この運動性低下を防ぐために当院では保温容器を使用している。そこで、感染症対策前後の期間で保温容器の効果がみられるか検証した。
調査データ該当期間：	20 19 年 3 月 1 日 ~ 20 21 年 2 月 28 日
研究の方法 (使用する試料/情報等)：	2019年3月から2020年2月までの感染症対策前(517周期、前期)、2020年3月から2021年2月までを感染症対策後(437周期、後期)とした。対象患者の精液所見は総精子濃度 $20.0 \times 10^6/\text{ml}$ かつ運動率40%以上と限定した。そして12-2月(冬)、3-5月(春)、6-8(夏)、9-11月(秋)と分けた。保温容器(サーモス、JBU-380)を用いて運搬した体外受精予定の195周期(前期)と321周期(後期)の総精子濃度、運動率、SMIならびに密度勾配遠心とSwim-up後の回収総精子濃度、運動率を比較した。
個人情報の取り扱い：	個人が特定できないように連結可能匿名化を行い、個人情報を保護しています。
本研究の資金源 (利益相反)：	なし
お問い合わせ先 ：代表電話 ：担当者(部門・氏名)	06-6534-8824 生殖技術部門 林智菜実
備考	